

小田原市下水道事業経営戦略について

1 策定の背景

本市下水道事業におきましては、人口減少社会の到来や省資源化等による水需要の減少に伴い使用料収入は減少傾向にあります。

一方で本市下水道事業は、昭和34年度に事業着手しておりますが、未普及地域解消の課題が残されています。さらに老朽化が進む施設の維持管理や改築を平行して行わなければならないと支出は増加傾向にあります。このような収入減少と支出増加により、経営環境はますます厳しさを増しております。

全国的にも下水道事業は同様の問題を抱えているため、公営企業としての経済性の発揮と公共の福祉の増進を図るとともに、将来にわたり事業を安定的に継続することが可能となるように、経営基盤の強化と財政マネジメント力の強化について、総務省から中長期的な経営の基本計画である経営戦略の策定が要請されています。

こうした状況を踏まえ、総務省から示されている『経営戦略策定ガイドライン』に基づき、「小田原市下水道事業経営戦略」の策定を行うものです。

2 概要

(1) 事業概要 (P 1)

小田原市下水道事業の施設及び使用料の事業状況並びに民間活力の活用等の事業概要であります。

経営戦略の計画期間は、平成30年度から平成39年度までとしたものです。

(2) 経営の基本方針 (P 3)

市の総合計画であるおだわら TRY プランの基本方針を基にして、①計画的で効率的な下水道の整備、②健全経営の維持、③災害対策の推進を経営戦略の基本方針としたものです。

(3) 投資・財政計画 (P 3)

「投資・財政計画」は、本市下水道事業の経営財務等の状況について、現状を的確に把握した上で、施設及び設備の合理的な投資の見通しである「投資試算」等の支出と、財源の見通しである「財源試算」の収入とが可能な限り均衡するように調整すべき計画であり、経営戦略の中心となるものです。

投資計画における主な投資内容の見込額は、汚水管渠の新規整備に約51.5億円、汚水管渠の改築改良に約41.2億円、雨水渠の整備に約19億円及び流量計の設置に約3億円となっております。一方、財源計画における下水道事業経営の根幹をなす下水道使用料について、人口減少等に伴う収入減少を見込んでおります。投資計画の支出及び企業債の元利償還均等の支出を差引すると、平成33年度から

単年度の資金収支がマイナスになる年度もあります。そこで今後、資金収支を均衡させるために、ストックマネジメントを活用した計画的かつ効率的な維持管理及び改築を行い、ライフサイクルコストの低減と投資の平準化を行うとともに、ストックマネジメント計画と連動したより効果的な不明水対策、様々な官民連携手法による民間活力の活用の検討を行います。さらに使用料については平成30年度に使用料のあり方について検討を行うとともに繰入金を増額についても検討を行います。

(4) 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項 (P 5)

この経営戦略は平成30年度から平成39年度までの10年間を計画期間としていますが、3年から5年を目途に、または計画前提条件の激変時に、検証及び必要な見直しを行います。なお、平成31年度にストックマネジメント計画を策定し、平成32年度から実施予定であり、これにより投資計画が変更されることから、平成33年度に経営戦略の改定を行う予定です。

3 策定時期

平成30年3月末